テーマ5 「貯める」と「借りる」どっちがよいか？
～生活設計と選択・判断～

ローンやクレジットを使えば、いまはお金がなくても欲しい物がすぐ買えるし、とっても便利だけど、買うために借りて使ったお金は必ず返さなくてはならないのは当たり前だよね。きちんと返す計画を立ててから借りられるかな？生活設計とマネープラン、もう一度しっかり復習してみよう。

1 「貯める」、「借りる」のそれぞれのメリット・デメリット

「貯める」、「借りる」どちらかが必ず正解とは限りません。買う物や金額、今の収入や将来の計画などによって、自分に最適の選択をしていかなければなりません。それぞれの特徴を簡単にまとめてみましょう。

	メリット	デメリット
借りる	いまはお金がなくても、将来の収入を見込んで（返済する計画を立てて）お金を使うことができます。子どもを育てるための家や進学のための教育費、手元にお金がないときの突然の出費など、いまどうしても必要な物を手に入れたいときには「借りる」はとても便利です。	**金利がかかる** 借りたお金には、その「レンタル料」として、借りる金額と返済期間に応じた「金利」がかかります。借りたお金よりも多くのお金を返さなくてはならないので、将来的には、より多くのお金が必要になります。 **返済計画どおりに返せない可能性がある** 最初に立てた計画は、金額が大きく、そして期間が長くなるほど思い通りにならなくなることがあります。病気で仕事を休み、収入が減ってしまった、もっと必要な物を買うためにさらにお金を借りてしまった、などいろいろなことが考えられます。
貯める	自分で貯めたお金なら、使い方を自由に選択できます。最初は家を買うために貯めていたお金でも、必要に応じて途中で車を買うために使ってもよいですし、旅行に使ってもよいのです。病気などで仕事ができず、一時的に収入がなくなった場合でも、貯めてあるお金があると安心です。	**本当に必要なときに貯まっているとは限らない** 家や車などの金額が高い物を買うお金を貯めるには時間がかかりますから、必要な物を必要な時に買うことができなくなる可能性があります。例えば、子どもが生まれたから広い家を買おうと思っても、貯まるまで待っていたら、子どもはもう大人になってしまうかもしれません。 **強い意志が必要** 目標額を決めて計画どおりにお金を貯めるには強い意志が必要です。無駄使いばかりしてしまうようでは、いつまでたっても貯めることは難しいです。

2 どうやって判断すればいいの？

「貯める」、「借りる」どちらがいいか、その判断はどうやってすればいいのでしょうか。まず大事なのはしっかりと**自分の収入と支出を考え、生活設計をしてみること**です。

「貯める」「借りる」判断のポイント

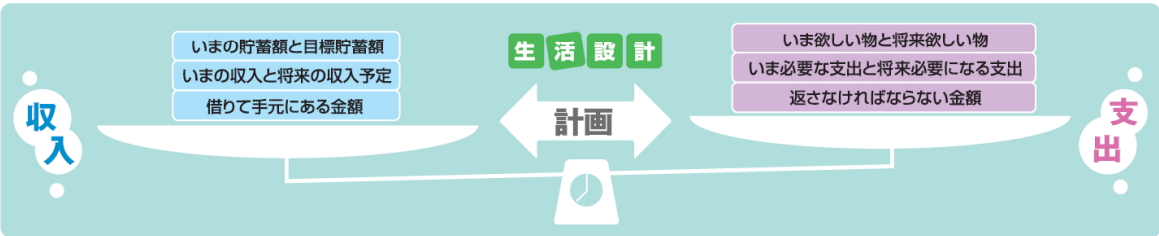
① 収入と支出のバランス
「借りて返す金額」も「支出」に含め、「収入」とのバランスを考える

② 支出の優先順位付け
支出内容に優先順位を付け、優先度合いによって必要かどうか判断する

③ 生活設計
いまだけではなく長期的な生活設計（結婚、出産など）の中で判断する

3 計画性を持ってお金を上手に使おう

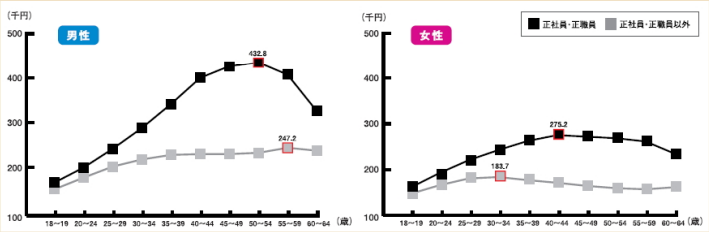
お金と上手に付き合っていくために必要なのは**「計画性」**です。「借りる」「貯める」を判断するときだけではなく、「使う」ことについて、**普段の生活から意識**することが大切です。



生活設計・マネープラン参考資料

① 雇用形態別の賃金

◆正社員・正職員の平均月収
318,200円（平均40.7歳、勤続12.7年）
◆正社員・正職員以外の平均月収
192,900円（平均43.5歳、勤続5.9年）

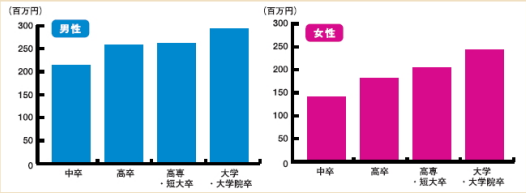


出典:厚生労働省「平成19年賃金構造基本統計調査」

② 最終学歴別生涯賃金 標準労働者の生涯賃金（定年まで、退職金を除く、2005年）

	中学校卒業	高校卒業	高専・短大卒業	大学・大学院卒業
男性	2億1550万	2億5910万	2億6340万	2億9450万
女性	1億4800万	1億8990万	2億1530万	2億5520万

出典:独立行政法人労働政策研究所・研修機構「2008ユースフル労働統計」



主なライフイベントの支出

① 結婚費用（全国平均）→ 421万円（婚約・結婚式・新婚旅行など）

出典:リクルート「ゼクシィ結婚トレンド調査2008」

② 子どもの教育費用（1人当たりの平均額） 幼稚園から大学まですべて国公立→ 8,351,941円 ／ 幼稚園から大学まですべて私立→22,090,997円

*幼稚園（3年間で計算）・小学校・中学校・高校は学校教育費・学校外活動費を含む学習費の総額の平均値　出典：文部科学省　平成18年度「子どもの学習費調査」
*大学は国立大学の学部学生（昼間部）の学生生活費のうちの学費分（生活費を除く）　出典：独立行政法人日本学生支援機構　平成18年度「学生生活調査」

4 「借りすぎ」は絶対にダメ

ローンやクレジットなどでお金を借りるということは、**「将来の支出を確定すること」**です。無計画に借りてしまうのは絶対いけません。また、そのときは「欲しい！」と思って買ったけれど、後から不要になったり、想定外の出費が重なり毎月の支払いができなくなったりすることもあります。

常に**収入と支出のバランスに余裕を持てるよう、**しっかりと計画を立てる必要があります。

本日の学習のまとめ　～生活設計と計画性～

point 1 借りて使うのは便利ですが、借りるには確かな知識と判断力が必要です

point 2 生活設計とマネープランを持って、お金と付き合おう

point 3 借りすぎは絶対にいけません
借りて使うときは慎重に計画しよう

＊＊＊＊＊ コラム 多重債務と自己破産 ＊＊＊＊＊

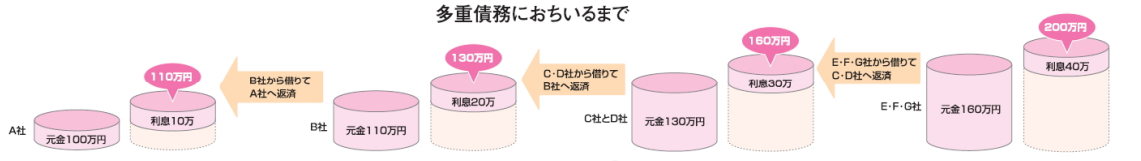
テレビや新聞で「多重債務」や「自己破産」が話題になることがあります。若い人たちのケースも多く、社会問題になっています。

「債務」とは**「お金を返さなければならない義務がある」**ということです。つまり、「多重債務」とは返さなければならない義務（お金）がたくさん重なってしまったということです。返す計画をきちんと立てて借りたはずのお金が何かの理由で返せなくなり、新たに別の金融機関からお金を借りて返してしまう。新たに借りたお金もまた返せず、さらに別の金融機関でお金を借り、、、ということを繰り返して**「債務」が増えてしまうのが「多重債務」**です（下図参照）。

多重債務におちいってしまう理由はいろいろですが、最も問題となっているのは、**無計画に返せる以上のお金を借りてしまい、返せなくなってしまう**、という**自己責任型**のものです。多重債務におちいると、そのとき持っている財産（現金のほか、家財道具などお金に換算できるもの）のうち、生活に必要最低限の物以外のすべてを失う**「自己破産」**をせざるを得ないこともあります。

平成19年の個人の自己破産申し立て件数は、年間148,000件を越えます（最高裁判所調べ）。平成15年をピークに減少傾向にありますが、それでも毎年これほど多くの人が自己破産の申し立てをせざるを得ない状況にあるのです。

多重債務におちいるまで



❶A社から100万円を借りたら、利息が10万円付いて返済額は110万円になった。

❷A社に返済する110万円を、B社から借りた。20万円の利息が付いて、B社への返済額は130万円になった。

❸B社に返済する130万円を、C社とD社から借りた。30万円の利息が付いて、C社とD社への返済額は合わせて160万円になった。

❹借りて返すを繰り返していくうちに、借金がふくらみ、返済が困難になって、やがて「多重債務」に……。

【用語解説　27ページ】生涯賃金／非正規職員（派遣社員、契約社員、パートタイマー）／フリーター・ニート／多重債務／自己破産